

“届けよう、服のチカラ” アワード 2018 年度受賞校

【最優秀賞】

学校名	兵庫県立三木北高等学校（兵庫県）
学年	高校 1～3 年生
人数	520 名
活動の枠組	教科（保育と環境、環境の科学）
活動テーマ	地域と共に 36 年 人と環境の三木北高校 ～Steps for the Future～
活動内容	出張授業の後、現在世界で起こっている難民問題等について考える時間を設け、活動内容の確認とポスターの作成、回収箱のデコレーションを実施。地域の認定こども園、幼稚園、公民館、市役所、小学校や、市のイベントに出向き、説明を行うとともに、ポスターの掲示、回収 BOX の設置を実施した。新聞社、ラジオ局にも協力を依頼し、生徒が FM 放送に出演。プロジェクトの内容や生徒の思いなどを伝えた。また、正門横に横断幕を設置し、地域住民だけでなく、生徒自身にも意識付けを実施したり、家族や親戚との会話の中で、「5W1H」を意識して相手に分かりやすく活動内容を伝えたり、家族とともに考えられる場を作った。



地域のこども園で行った本校生徒による“出張授業”の様子。先生を巻き込んだ劇に子どもたちは大喜び。子どもたちに人気のキャラクターを使って、「服がなく寒い」と震えるお友達を助ける内容の劇を生徒が考案。



三木市国際交流協会のイベントに参加した際、生徒が自分たちで書いた説明のチラシを参加者に丁寧に説明をしながら、協力の依頼を実施。

【優秀賞】

学校名	備前市立片上小学校（岡山県）
学年	小学校 6 年生
人数	26 名
活動の枠組	総合的な学習の時間及び特別活動（児童会活動）
活動テーマ	JICA との連携、小中連携を意識した国際理解教育 「本当の国際協力を考えよう」
活動内容	52 時間の単元構想を通して難民と向き合い、難民についてきちんと理解してからこの活動に取り組んだ結果、児童は主体的にプロジェクトに取り組むことができた。全校児童や地域の方々、こども園や中学校にも呼びかけ、4,739 枚の服を集めることができた。ただの特別活動ではなく、総合的な学習の時間に組み入れて行ったこと、JICA とも連携し国際協力について知ったり、専門家の話を聞くことで、今まで自分たちが調べてきた課題を解決したり、新たな疑問や課題を見つけて、次の活動を行う動機づけとなった。



JICA 関西へ訪問し、職員の方から JICA が行っている活動や国際協力の話を聞いたり、元青年海外協力隊員から現地での活動や子どもたちの様子を聞いた。また、館内の展示物を見学したり、開発途上国の食事を味わったりした。



回収した 4,739 枚の子ども服は、体育館のフロアに大きな服の形にして並べた。昼休みには、全校児童や教職員、保護者、地域の方、教育委員会の指導主事の先生方が、2 階フロアから見学した。この活動を通して、自分たちが集めた子ども服の数の多さを改めて実感することができた。

【優秀賞】

学校名	館山市立北条小学校（千葉県）
学年	小学6年生
人数	40名
活動の枠組	総合的な学習の時間
活動テーマ	エコにこだわった活動にしよう！
活動内容	「エコにこだわった活動にしていこう」と始動した本プロジェクト。 ①かわいいボックスチーム②ダンボールチーム③チラシチーム④リサイクルチーム⑤CMチームに分けて活動を実施。手作りのチラシの使用や、家族への協力依頼を子どもたちが熱意を持って実施した結果、大人たちが動かされた。子どもたちは課題を自分たちで考え、乗り越えるということを体感することができた。



ウェビングマップを使い、自分たちに何ができるか検討。



活動最終日に、55箱のダンボールを運び出し、これまで多くの子ども服を集めてくれたかわいいボックスたちとチラシに囲まれて最高の一瞬。
どの子にも、この活動で得た成長が実感できる貴重な振り返りと共に充実の期間が過ぎせた。

【優秀賞】

学校名	横浜市立鶴ヶ峯中学校（神奈川県）
学年	中学2年生
人数	30名
活動の枠組	総合的な学習の時間
活動テーマ	世界平和のために、私たちができること
活動内容	委員会を中心に「広報・宣伝チーム」「回収活動チーム」を組織。「広報・宣伝チーム」では、全校生徒は地域住民に周知するためのポスターやチラシを作成し、協力を呼びかけた。委員の生徒全員で実際に出身小学校や出身保育園に出向き、活動の趣旨や回収日程について説明を行った。「回収活動チーム」では、回収を行うための箱を装飾したり、プラカードを作成したりするとともに、校内で回収枚数を周知するための掲示板を作成して、活動を発信した。



平日朝に、5日間行った回収活動では、活動を行っている第2学年だけではなく、他学年の生徒や保護者も子ども服をもってきてくれた。



連合自治会主催のチャリティバザーで、ボランティアの生徒が主導して子供服の回収活動を行った。2時間程度の回収活動で、2,000枚を超える子ども服が集まった。

【優秀賞】

学校名	岡山県井原市立高等学校（岡山県）
学年	高校 2～3 年生
人数	38 名
活動の枠組	教科（家庭科・地歴公民科）
活動テーマ	地域のことを考えて、活動をする
活動内容	「服のチカラ」の授業を受け、服の取り扱いや難民や世界情勢についての振り返りを実施。子ども服の回収の協力をお願いする組織や学校について、またPR方法について検討し「地元ケーブルTV出演」「ポスター・チラシ制作」「新聞取材」「回収箱作成」を実施。電話で概要を説明し、協力してくださる許可を得た学校等に文章で依頼し、チラシ・ポスターを使って説明を実施。活動の様子を随時学校HPで報告。回収後は協力施設にお礼を伝え、活動内容・回収結果を模造紙にまとめたの掲示や、1枚の新聞にして配布を実施。



社会福祉協議会に箱の設置の依頼をしているところを地元のケーブルテレビが取材してくださっているところ。地元ケーブルテレビが、その日のニュースで取り上げてくれるため、それを見て服を持ってきてくださる方も多い。



文化祭の日の展示。文化祭で、回収出来た服の枚数の報告や活動の様子を報告。箱の中には、すべて服が入っている。

【審査員特別賞】

学校名	美濃加茂市立太田小学校（岐阜県）
学年	小学6年生
人数	97名
活動の枠組	総合的な学習の時間
活動テーマ	「世界に目を向けよう！」日本を知り、世界を知ろう
活動内容	<p>施設連絡班、回収BOX班、広報班、校内連絡班、記録班を設置し活動を実施。3年目となる本年度は、新しい活動を2つ加えた。</p> <p>①市内ケーブルテレビ局の協力で、2週間に渡り児童による服の回収を働きかける番組を放送。それを見た校区外や市外の方からも子ども服が宅配で届けられた。②服の回収後は、集めた子ども服が詰まった108箱の段ボールを使って、体育館に巨大迷路をつくり、協力してくれた園児や下級生に楽しんでもらい、感謝の気持ちを伝えた。</p> <p>また報告会を計画し、ユニクロ店舗の方や協力施設の代表者、個人回収で協力していただいた方々を招き、活動の報告とお礼を伝えた。</p>



子ども服が詰まった「段ボール巨大迷路」で園児と一緒に遊ぶ児童の様子。服の回収に協力してくれた園児や下級生に、「一緒に遊んで楽しむ！」という6年生なりの方法で、感謝の気持ちを伝えた。園児や下級生とともに、6年生も笑顔がいつぱいの温かい雰囲気にもまれた時間となった。



報告会にて、回収した108箱の段ボールで作った巨大迷路とともに、ユニクロの方、服の回収に協力してくださった施設の方たちと一緒に記念撮影をした。

【審査員特別賞】

学校名	南丹市立園部中学校（京都府）
学年	中学 1～3 年生
人数	387 名
活動の枠組	教科（家庭科・総合的な学習の時間「ねらい：国際理解教育」）
活動テーマ	今、日本から、京都から、南丹市から、みんなのできること ～先輩から後輩へ 学校から地域社会へ 日本から世界へ～
活動内容	2013 年から 6 年間連続して、「服のチカラ委員」を構成して毎年活動に取り組み、244 名が参加、7,851 着を集めた。「出身小学校や保育所、幼稚園へ自作したポスター掲示と回収活動の広報をしたい。」と生徒から主体的な要望があり、実施した。また、「服のチカラ便り」を作成し、朝学活中に全校の学級へ配布し、広報にあたった。さらに、ケーブルテレビを使ってお知らせを収録した。ケーブルテレビは南丹市内だけの放映だが、南丹市内の JR の駅で視聴したという他市の方から、電話で多くの問い合わせが寄せられた。



出身小学校を訪問して、校長先生や担任の先生と卒業以来 4 ヶ月ぶりに再会。
服のチカラ活動の説明と回収作業への協力依頼とポスターの掲示をお願いした。



回収した衣服を箱詰めした後、服のチカラ委員の集合写真。

【審査員特別賞】

学校名	私立中京学院大学附属中京高等学校（岐阜県）
学年	高校1・3年生
人数	32名
活動の枠組	国際コースとしての取り組み
活動テーマ	国際理解・国際協力（世界の援助を必要としている人たちへ貢献できることはないかを考えさせ、行動させる）
活動内容	<p>まず集める目標枚数を1万着と設定し、実験的に第1段階として校内で協力を呼びかけたところ、約1,000着が集まった。自分たちの意図を理解し、賛同し協力してもらえたことへの喜びや感謝の気持ちを味わい、更に活動を広げたいという動機づけに繋がった。第2段階として、今後も継続する活動にしていこうと、小中学校の生徒さんにもこの活動を知ってもらうため、直接自分の出身校（幼稚園・小中学校）にアポを取り、出かけ、各校の校長先生や生徒会担当の先生方に直接協力依頼交渉をした。</p> <p>どのように伝えれば効果的に周知できるかを考え、保護者向け、小学生向け、中学生向けと対象に合わせて、広報用のチラシやポスター・回収箱を準備し、最終的には19もの園・学校の協力を得ることができた。</p>



第1弾として校内で呼びかけて集まった約1000枚の子ども服10箱分と全員で撮影。自分たちの活動を認めてもらったことで、次の段階への動機づけになった。



各小中学校からご協力いただき集まった服と。集まるごとに服の状態を確認し、数え、送付用の段ボールに詰めて送付。全部で155箱、18,930枚の服を集めることができた。